

本県海域に欧州の技術



国内初、EMECが提供へ

洋上風力発電や潮流発電の実験を本県海域で実施する海洋再生可能エネルギー実証フィールドの運営に対し、同エネルギー分野の先進地である英スコットランドで潮流発電などの実証試験海域を運営する欧州海洋エネルギーセンター（EMEC）が技術提供する方針を固めたことが21日、分かった。スコットランド国際開発庁日本事務所によると、EMECが技術提供といった形で国内地域と連携するのは初めて。

海底ケーブルの海水防護策やフィールド内での作業の安全確保などを視野に、運営に際し必要な技術を有償で提供する考え。EMECとの契約主体は現在検討中だが、実証フィールドの在り方を検討する県の本年度事業に参画する県内外の企業や団体でつくるコンソーシアム（企業連合）の関連企業となる見込み。年内に契約書を交わす。

大学の研究施設で、施設代表から説明を受ける視察団＝英スコットランド、エンジンバラ大長崎海洋産業クラスター形成推進協議会提供

海洋再生可能エネルギー分野への参入を目指すNPO法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会（事務局・長崎市、53社）の坂井俊之理事長（協和機電工業会長）が、EMECなどと交流した欧州視察後の取材で明らかにした。

五島、西海市の本県3海域は、潮流発電や洋上風力発電の実験ができる国の海洋再生可能エネルギー実証フィールドに選ばれている。坂井理事長は「EMECという世界のトッププレーヤーとの連携は強みだ。海

洋産業を本県の重要な産業の一つに育てるため、活動を進めたい」と語った。欧州視察は10、19日に実施。協議会の会員企業や国

県の関係者ら25人がスコットランドやフランスを訪問。EMECや世界初の潮流発電の商用化を目指す企業などを見学し意見を交わ

した。関連企業とも交流し、同協議会員企業との連携に関心を示した企業も複数あったという。（小山健太、田賀農謙龍）